

平成30年宇治田原町全員協議会

平成30年9月3日

午前11時31分開議

議 事 日 程

- 日程第1 総務建設常任委員会視察研修委員長報告
- 日程第2 文教厚生常任委員会視察研修委員長報告
- 日程第3 城南衛生管理組合議会議員報告
- 日程第4 京都府後期高齢者医療広域連合議会議員報告
- 日程第5 京都地方税機構議会議員報告
- 日程第6 その他

1. 出席委員

議 長	12番	田 中 修	議員
副議長	1番	谷 口 重 和	議員
	2番	松 本 健 治	議員
	3番	垣 内 秋 弘	議員
	4番	馬 場 哉	議員
	5番	浅 田 晃 弘	議員
	6番	原 田 周 一	議員
	7番	山 本 精	議員
	8番	藤 本 英 樹	議員
	9番	山 内 実貴子	議員
	10番	今 西 久美子	議員
	11番	谷 口 整	議員

1. 欠席委員 なし

- 1. 宇治田原町議会全員協議会規程第5条の規定により会議事件の説明のため出席を求めるものは次のとおりである。

町 長 西 谷 信 夫 君

副町長	山下康之君
教育長	増田千秋君
総務部長	奥谷明君
健康福祉部長	久野村観光君
建設事業部長	野田泰生君
まちづくり整備推進 担当部長	黒川剛君
教育部長	光嶋隆君
企画財政課長	矢野里志君

1. 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

事務局長	村山和弘君
庶務係長	太田智子君

---

## 開 会 11時31分

○議長（田中 修）引き続きまして、大変ご苦勞様です。会議は、お手元に配布しております会議日程により進めさせていただきます。これより議事に入ります。日程第1、総務建設常任委員会視察研修委員長報告を議題といたします。垣内議員。

○議員（垣内秋弘）それでは私のほうから総務建設常任委員会の視察報告ということでやらせていただきます。実は当初、7月12日、13日に広島県及び鳥取県のほうに行く予定でありましたが、ちょうどその間、豪雨ということで現地も非常に荒れているということで辞退をいたしまして、その代わりではないのですが関連も含めまして近隣市町のほうへ2箇所視察に行つてまいりました。その1として、京田辺市でございます。この京田辺市の高機能消防指令システム更新に伴います見学研修ということでございます。内容を見てみますと非常に素晴らしい現代に見合った高システムということでありまして、最終的には我々の身近な分署においても活用されて、それと本部の田辺の方と連携をとられて一体化されて非常に安心して暮らせるということでございます。7月18日京田辺市の最新鋭の高機能消防指令システム更新に伴いまして、見学会を実施、研修を行いました。当該システムは京田辺市をはじめ井手町、宇治田原町の一市二町を管轄するシステムとして更新整備され、緊急時の対応について今まで以上に迅速かつ効果的な消防活動が可能となり機能的強化が図られたところでございます。このシステムの特長であります、より迅速・正確な指令管制と現場活動を支えるシステムということで、連携を強化されて一体化されている。特に携帯電話やIP電話からの119番通報にも対応した統合型位置情報通知装置により、災害地点をより早く特定したり、車両運用端末装置にメモ画像として送信でき、迅速・正確な指令管制・現場活動が可能となったということです。そして、もう一つは安全性、信頼性の高いシステムということで、大規模災害時においても、障害・停電時にも安定的な運用が確保できるよう重要装置を冗長化し、セキュリティにも配慮した安全性、信頼性が高いシステムである。それから3つ目として、情報連携を図ったシステムということで、先程からも言つてますように、指令業務と支援業務の連携を強化し、相互での情報連携を高め現場活動の強化が図られた。説明は簡単に受けたわけですが、その中で感じたことにつきましては、更新された高機能消防指令システムは、京田辺市のコントロールセンターにおいて、一市二町がより一層連携の強化が図られコンピューターの画面で瞬時に映し出され、活動に取り組める体制が強化されたため、日常における人員配置や無駄な時間の短縮が図られるとともに、有事の際には全体の動きが一瞬で判断できる機能が構築されたため、行動する職員に的確な指示がいち早くできるようになつ

たこのシステムは現代社会に見合った素晴らしい機能であったということです。特に住民からは安心安全、より迅速の対応のもとに担保できることは安心して生活ができるとともに消防署としても体制の強化が図られたということです。それから2点目の甲賀市木の駅プロジェクトにつきましては裏面でございます。これについては総務建設常任委員会メンバープラス山の活用を考える会のメンバー、その他ということで合同して行って参りました。8月7日の日に行きまして、特に甲賀市は滋賀県の東南部に位置して平成16年に5つの町が合併されて甲賀市が誕生したわけですが、その中の甲賀町というところで「甲賀木の駅プロジェクト」というものが設立されております。この度、甲賀町の「甲賀木の駅プロジェクト」事業について視察研修を行い、当日は宇治田原町山の活用を考える会6名を含めましてマイクロバスで参加させていただきました。特にこの活動の中での合言葉は「チェーンソーと軽トラで山を元気に、町を元気に」ということで、特にチェーンソー実践による伐倒技術研修会の実施、あるいはまた安全講習会の実施等々を行いながら、手作りの活動をされている。事業の概要につきましては、木材を買い取り地域通貨「モリ券」というのを発行して地元で回している、その「木の駅」システムを立ち上げまして、間伐後の木材をチップに加工し販売して、モリ券で仕事をする人を増やし、森の恵みの直接的な利益と間接的な利益、つまり環境・水源・景観などを実感できる人を増やしていくという取り組みをされています。事業目的につきましてはここに5点ほど書いておりますが、森の整備を進める、山に行く人を増やす、木を販売する仕組みを作る、森の恵みを地域に活かす、持続可能な地域づくり。このようなことで、プロジェクトの仕組みにつきましては、山から搬出した木をチップ工場等に販売して。販売収入に上乗せ金をつけて地域通貨（モリ券）で木材出荷者に代金を支払っている。貰ったモリ券は協力店で使えと、店は月末にモリ券を現金と換金してもらおうと、こういうまわし方をしながら活動をされている。特に手造り森の整備ということで、森林調査、特に選木とかにつきましては、小規模自伐林業の実践としてやられてますし、道具の工夫もされて、いろいろ省力化して自分たちでカンカンといって目方を測るような機械も作成されてやっているということでございます。今森林や山が荒廃する現代社会におきましては、森を整備し木材を有効活用することは必要と分かっているにもかかわらずできていないことが現状であります。木材の生産地域については非常にハイテク化が進み、自動伐採や山から無人搬送機で搬送してコスト削減も行っているところが多々ありますし、甲賀市は有志の人が手作りチームを組み、ルール作りを行いながら立ち上げ、実践されている。素晴らしいと言ったら素晴らしいが、それが今の時代に合ってるかと言ったらなかなか手

作りの作業で有志で、質問もしたがNPO組織に入ってるのかと言ったが、なかなかそこまで立ち上げるには条件が満たされないようで、それもやってないようでひとつの活動としてやられてる状況の中を見学実践し勉強させてもらったということでございます。簡単でございますが一応報告とさせていただきます。

○議長（田中 修）ただ今の報告につきまして、何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（田中 修）ないようでございますので、次に移ります。日程第2、文教厚生常任委員会視察研修委員長の報告に移ります。谷口議員どうぞ。

○議員（谷口 整）文教厚生常任委員会の視察ですけれども、7月3日、4日の二日間、行き先は香川県の三木町、翌日は兵庫県の神河町とこの2つの町に視察に寄せていただきました。まず、初日の三木町では、子育て支援施策についてを学んできました。1時半から3時半までの2時間ということで視察をさせていただきました。同じく神河町では翌日教育施策についてでありますけれども、1時半から予定の3時半を上回って、3時50分ぐらいまで色々と熱心に視察をしていただきました。参加者は宇治田原町議会からは文教厚生常任委員会の6名と議長、随行は議会事務局長、学校教育課長、合計9名で参加させていただきました。まず7月3日の三木町ですけれども、町長や議長の出迎えを受け、その後、担当職員から子育て支援施策について色々ご教授をいただきました。この三木町は、『日本一子どもを産み、育てやすいまちを目指した「みきを故郷に、ええんちゃうん！子育て大作戦』という子育ての施策を展開中の人口規模で言いますと、本町より3倍程度多い27,000人余りの町でした。またこの町では「まんでがん子ども課」という聞き慣れない初めて聞く名前の子育て支援の課ですが、ここを中心に、教育委員会、保育所、幼稚園、学校等と連携し、様々な子育て支援施策を展開しておられました。ちなみに、「まんでがん」とは讃岐弁の「すべての願い」の意味で、様々な願いを叶えたいとの思いで命名されたようです。

具体的には、助産師が主催するママカフェや全国的にも数少ない5歳児検診、24時間対応の一時預かり事業、病児・病後児保育の実施等、いろんな様々な事業を展開されております。また子育て支援券として第1・2子には1万円、第3子には、破格の金額だと思えますが20万円の金券の支給をされています。ちなみにこの金券は地域で活用する商品券を使っておられるようです。それら成果等があって、人口減少の時代にあって本町も自治体の人口減少対策に苦慮しておりますけれども、三木町では年間220人程度の出生があり、この子たちが小学校に入る頃には250人と、更に30人ほど転入等あり、子どもの数が減っていないというそういう町

で、まさに先程ふれました「まんでがん」という町の思いを感じ取ることができました。

また、平成32年には『(仮称) まんで願いいき公園』という子育て支援センターを今建設中で、妊娠から出産、育児へと切れ目のない子育て支援を展開していきたいという思いで建設中であります。本町でも同年完成予定の子育て支援センターも含め、子育て世代のニーズに応えられるよう参考にすべき点多かったと思います。翌日4日の神河町は、副議長の出迎えを受け、担当職員から教育施策についてご教授いただきました。神河町は、平成18年に旧神崎町と旧大河内町が合併した町ですけれども、25年間の人口減少率が21%、3年間の財政力指数が0.5以下となり、昨年に過疎地指定を受けた人口11,000人、本町より少し多い規模の町でした。偶然ですけれども神河町は、本町と同じくハートの形をした町で、また、享保元年(1716年)に京都と繋がりのあるお寺の坊さんが、生産を始められた仙麗茶というブランドのお茶の産地でもあり、本町とのご縁も感じる町でありました。

教育施策の先進事例は、ソフトバンクの人型ロボット「pepper」の無償貸与に応募し、27台を導入しプログラミング教育等を推進しており、全国でもまだ17自治体のみという数少ない機会を子供たちに与えるという貴重な教育経験を実践されている町であります。また「子どもの夢を叶える事業」として、中学2年生を対象に『神河町に住み続けたい町にするために』をテーマに毎年町長が講演講義をし、その後グループ討議等を経て中学生の子供たちが町長に意見書を提出している。町は実現可能なものは翌年に予算化し事業化を行い、すでに特産品を活用した柚子スキんクリームやボディソープを開発、販売されております。また、廃校跡地を利用した「神河やまびこ学園」は都会と農村の交流拠点として、また山村留学の生活の場としても活用されております。また、子どもを育む拠点施設としての「児童センターきらきら館」を整備され、6名のインストラクターが配置されている。あとボランティアの方々など、あわせて教育や子育てに力を注いでいる姿が伺い知れた町でした。

なお、冒頭に触れましたが本町と神河町は「ハートの形をした町」「歴史のあるお茶の町」、また山林面積が80%余り、人口も似通っている等、共通点が非常に多く親近感を感じる町でありました。今回の視察に参加した委員の中からも、この交流を一つの機会に今後両町の交流が図ればなという思いを持った委員さんも何人かおられましたし、例えば災害の応援協定だとか、ハートのまち、お茶の町という共通点を活かしたような町同士の交流に発展すればとの思いでこの神河町を後にしたと

ころであります。

以上、香川県三木町及び兵庫県神河町の先進事例を視察しましたが、今後の議会活動に活かしていきたいと思えます。以上です。

○議長（田中 修）はい、ありがとうございました。ただいまの報告につきまして何かございましたらよろしく願いいたします。

ないようでございますので、次に移ります。日程第3、城南衛生管理組合議会議員報告を議題といたします。はい、馬場議員。

○議員（馬場 哉）それでは、城南衛生管理組合議会の報告をいたします。3月28日、2月定例会が開催され、担当の馬場、藤本両議員が出席いたしました。記載の通り議案第3号から7号までは全員賛成で可決いたしました。中でも3号議案、予算総額45億9,388万円の一般会計予算ですけれども、前年度比39.5%減、この原因は新施設が稼働することにより、来年度は予算が減ったということでございます。それから4月1日一日あたり57.5トンの処理能力の二つの炉を備えたクリーンパーク折居が操業を開始いたしました。4月21日クリーンパーク折居の竣工式に田中議長をはじめ、馬場、藤本両議員、町からは西谷町長、黒川部長、垣内課長に出席をいただきました。6月6日は、総務常任委員会、馬場が出席しました。議題としましては、クリーンパーク折居の稼働状況等について、新環境マネジメントシステムについて。同日、廃棄物処理常任委員会も開催され、藤本議員が出席されました。議題はクリーンパーク折居の稼働状況等についてです。それから6月29日、これは初めての試みなのですが、組合の真田議長の提案で議員懇談会を開催されました。所属議員22名のうち20名が出席して本町からは馬場、藤本両議員が出席いたしました。議題の内容は今後の組合運営全般についてということで実りのある議論懇談会ができたと思っております。以上で城南衛生管理組合の報告を終わります。

○議長（田中 修）ただ今の報告につきまして、何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（田中 修）ないようでございますので、次に日程第4、京都府後期高齢者医療広域連合議会議員の報告をお願いいたします。浅田議員。

○議員（浅田晃弘）それでは、京都府後期高齢者医療広域連合議会議員報告を行います。平成30年第2回定例会が平成30年8月24日に行われまして、会期1日、出席議員27人で開会いたしました。議決結果については、広域連合長提出議案、同意案件が2件、承認案件4件、認定案件2件、議案2件、計10件について提出があり、すべて可決いたしました。また、2ページ目でございますけれども、請願

1 件が提出されていましたが、賛成少数で不採択となりました。以上、報告いたします。

○議長（田中 修）ありがとうございます。ただ今の報告につきまして、何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（田中 修）ないようでございますので、次に日程第 5、京都地方税機構議会議員の報告をお願いいたします。原田議員。

○議員（原田周一）それでは、地方税機構の報告をさせていただきます。去る、8 月 4 日にルビノ京都堀川にて、京都地方税機構議会が開かれました。それに先立ち、全員協議会が開催された。それを受けて午後 2 時より本会議を開催されました。本会議の議題といたしましては、人事案件、決算案件、そういったものが提出されて、結果、人事案件の方は全員賛成、28 年度の決算関係につきましては、賛成多数で採決されたということでございます。以上です。

○議長（田中 修）ただ今の報告につきまして、何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（田中 修）ないようでございますので、次に移ります。日程第 6、その他に移ります。その他、何かございませんか。町当局、何かございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

議長（田中 修）ないようでございますので、これで全員協議会を終わります。なお、最終日の 9 月 28 日においても、全員協議会を予定しております。町当局より行政諸報告等について報告を願うこととしておりますので、調整方よろしく願いしておきます。本日は、ご苦労様でした。ありがとうございました。

閉 会 午前 11 時 57 分



宇治田原町議会全員協議会規程第8条の規定によりここに署名する。

議 長 田 中 修